

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和3年度岐阜県立池田高等学校学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和3年11月2日(火) 10:00～12:00
- 3 開催場所 池田高等学校会議室
- 4 参加者

会 長	小林 月子	サンビレッジ国際医療福祉専門学校長
副会長	杉原 孝	育友会長
委 員	仲井 智一	池田町教育長(欠席)
	宇野 秀宣	神戸町教育長(欠席)
	渡部 彰規	池田町立池田中学教頭(代理)
	山田 直人	神戸町立神戸中学校長
	西尾真奈巳	神戸町地域代表
	西川 昭	元池田高等学校育友会役員
	寺戸 敏彦	池田町杉野区長
	安田 正博	元池田高等学校育友会役員
		垂井町青少年県指導員
学 校 側	西谷 徹	校長
	杉江 祐子	教頭
	若園 佳織	事務長
	吉田 一臣	教務主任
	稲葉由里子	生徒指導主事
	古山 克幸	進路指導主事

5 会議の概要(協議事項)

(1) スクール・ポリシー(案)について

【学校側】

7月に実施した生徒、保護者へのアンケートと、9月に実施した教員へのアンケートを踏まえ、質問項目の文言を練った。本校の生徒は、卒業時に自立して、自分で考え、自信を持って行動したいと考えている。内容はよいか、わかりやすい文言であるかを含め、忌憚のないご意見をアンケートに記入していただきたい。

【アンケートより】

① グラデュエーション・ポリシー(GP)

意見1:他者と意見や情報を共有しながら、協同(協働)して、目的を達成することのできる生徒、問題を協力して解決していくことのできる生徒を育ててほしい。

意見2:「環境の変化を恐れず」を、「社会や環境の変化を恐れず」としたらどうか。

意見3:保護者として、環境の変化を恐れず、自信を持って挑戦できる人間になってくれればと願っている。

- 意見4：本校で何を学びたいのか、答えが出るように生徒を導いてもらいたい。
意見5：先生方には生徒の個性をつかみとってほしい。
意見6：生徒が本校で学ぶゴールを具体的にイメージできるかどうかがかギとなる。
意見7：どこかに「自律」の文言を入れてはどうか。

②カリキュラム・ポリシー（CP）

- 意見1：問題解決能力育成のためにも、問題発見・課題発見ができる授業や、生徒の知的・精神的興味や関心を引き出す工夫のある授業、生徒のアンテナを大切にする授業を実施してほしい。
意見2：学校内だけでなく、地域の中で他者と共に問題発見、解決をはかる力を育成するカリキュラムを構築してほしい。
意見3：2030年にSDGsの世界になった時、生徒たちはどのような職業につきたいのか、方向性を示してもらいたい。
意見4：個性を育てるのも大切だが、ある程度統一されたカリキュラムが必要である。ハイブリッド的に学べるとよい。
意見5：生徒が仲間に教える事により、より深く学べる場を提供してほしい。

③アドミッション・ポリシー（AP）

- 意見1：「自らの可能性を、学校内外で、いろいろなチャンスをとおして発見し、伸ばしたい生徒」という文言はどうか。
意見2：「協働の楽しさを味わいたい、体験したい生徒」という文言はどうか。
意見3：「自分の基礎を築き」を、「将来の夢や目標に向け自分の基礎を築き」としたらどうか。
意見4：「丁寧な対話を重ねる体験がしたい生徒」ではわかりづらいので、「自分の思い、考えを深め広げる生徒」としたらどうか。
意見5：グローバルに対応できる人、コミュニケーションがとれる人、自分で判断できる人に入学してもらいたい。
意見6：仲間と共に学ぶことで遅れを感じることがあると思う。自分の学びの再確認（認識を深める）としてとらえることが大切だ。
意見7：「他人を思いやり、多様な考えを受け入れる生徒」に入学してもらいたい。
意見8：「自分自身をしっかり見つめることができる」という資質も必要である。

（2）学校と地域の連携について

【学校側】

- まずは、来年度、本校で立ち上げる学校設定科目「地域社会福祉Ⅰ・Ⅱ」「地域環境保全」では、地域での活躍の場がほしい。また、学校設定科目「国際交流」を立ち上げたい。
また、学校施設開放と災害時の避難所についても意見をいただきたい。
意見1：総合的な探究の時間では、こちらから何か与えるというよりも、生徒が自信をもってどんなことをしたいのかを考える場を与えるとよい。
意見2：SDGsを意識した探究活動を実施し、その実践を発表する学びを中学校でも実施し、さらに高校でそれを発展させた取組にするという形がよいのではないか。池田中学校では、地域の15人の方から仕事の内容を話していただく機会を設けている。SDGsも地域課題解決も、中高でつながりをもって実施できるとよい。
意見3：ホテル祭りでは、生徒にボランティアをしてもらっており、また、8月には科学部に、ハリヨの保護活動を実施してもらっている。今後もこのような地域連携を続けてほしい。また、災害時の避難所については、この地区の防災の拠点は、池田小と東公民館だと理解している。
意見4：地域と生徒会の交流はどうか。小・中・高生と語る会を実施している自治体がある。子どもが望んでいることを発信する場を設けるとよい。体育館の開放は、管理者を明確にすることと、非常時の連絡網を確立することが必要である。

意見5：生徒はゴールが見えていないと努力ができないところがある。地域へのボランティアがやりがいのあるものであってほしい。例えば、報酬を得られるアルバイトも一つの地域貢献といえる。地域の外国人とALTがタイアップして、地域で英語教育を実施したり、一緒に名所・旧跡を巡ったりすることもできる。

⇒ 本校では届け出制で、アルバイトを許可している。

意見6：学校設定教科『地域』が、体験を通して学ぶ、達成感のあるものになるとよい。本学（専門学校）にも、アジアから26名の留学生が来ている。いろいろな力添えができればと考えている。

（3）身だしなみ指導について

【学校側】茶髪、スカート丈、ブレザーのボタンを留めることについて意見をいただきたい。

意見1：校則について、ただ生徒に「ダメです」だけでは効かない。丁寧な説明が必要であり、説明できないようなルールは廃止するべきである。

意見2：ブレザーのボタンを留めないのは、特に冬場は防寒着を中に着込むので、動きにくいいためである。行事の時はきちんと留めるなど、メリハリをつけるとよい。冬期の登下校時は寒い。スパッツを履いたり、タイツをはいたりすることはできるのか。

⇒ ストッキング・タイツの着用は認めている。スパッツもスカートからはみ出していないなら、着用してよい。

意見3：茶髪については、このあたりまでは許そうかという範囲を決めることが望まれる。

⇒ 校則（規定）については適宜見直しをする。生徒会は、生徒の意見を集約し、校長に対し、校則の改正又は廃止を求めることができる。

6 会議のまとめ

- ・学校長によるプレゼン「単位制普通科高校としての池田高校のビジョンについて」で、全員で令和4年度の方向性を共有した。
- ・「スクール・ポリシー」（案）について貴重な意見が得られた。現在、生徒会役員にも同様のアンケートを実施している。第3回の学校運営協議会での承認に向けて、「スクール・ポリシー」をさらに検討する。
- ・本校は独自選抜による生徒の部活動もあり、外部に施設を開放することにより、生徒たちの活動が制限されることは避けたい。体育施設の開放はしない方向である。
- ・身だしなみの見直しについては、生徒自身が自分たちで動く体制を整えている。校則の見直しを機に、生徒の自治力を向上させたい。